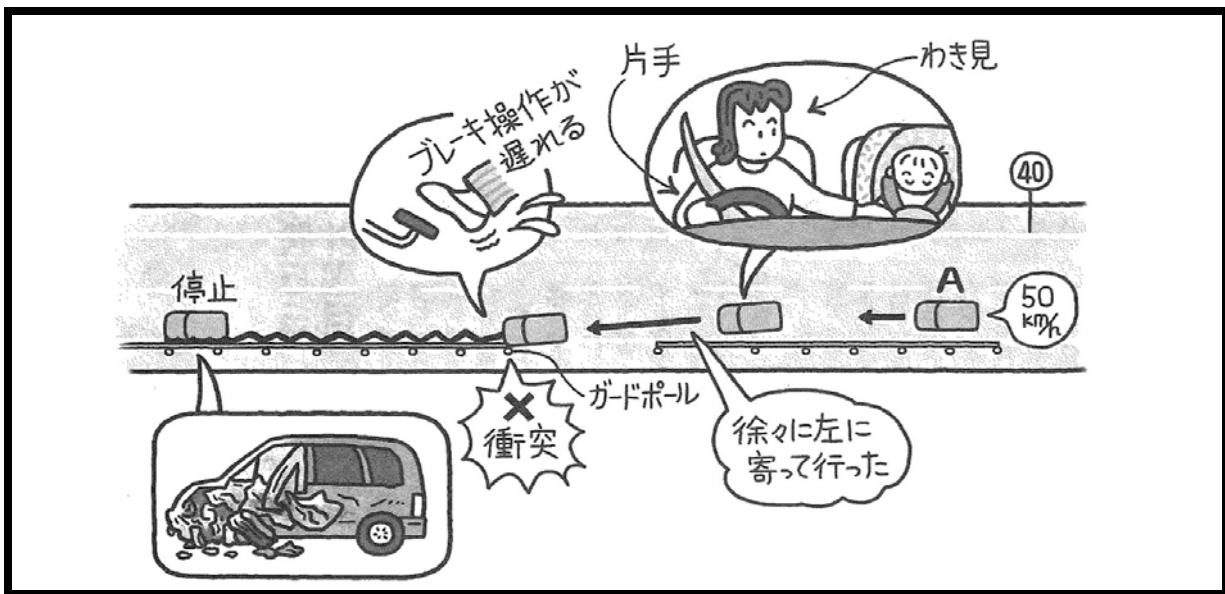


■事故の概況



事故類型：車両単独

発生日時：夕方

当事者A：ワゴン車 20歳代 女性

■ 事故の概要

Aは買い物帰りに郊外の住宅地を通る往復2車線、幅員5.6mの直線道路を時速約50kmで自宅に向かって走行していました。住宅地の生活道路は、すれ違う車もほとんどないことから特段注意もせず、いつものように運転していましたが、この日は助手席のチャイルドシートに生後半年の子どもを乗せていました。あと少しで自宅というときに、Aは助手席のチャイルドシートの子どもが気になり、視線を子どもに向けながら、つい右手だけの片手運転になっていました。このとき、運転していた車が、徐々に左側によっていることに気がついていませんでした。そのため、A車は直線道路を徐々に左に寄るように走行し、道路左側に設置されているガードポールに左前部が衝突してしまいました。

Aは、ガードポールとの衝撃音に気が動転し、とっさに助手席の子どもをかばおうとしたことから、運転していたA車のブレーキ操作が遅れてしまい、ガードポールに車の左側面をすりながら約17m進行した後、停止しました。

A車は、左側面を中心に大破し、助手席のチャイルドシートに乗せていた子どもは、割れて飛散した窓ガラスの破片で顔面裂創の傷を負ってしまいました。

■ 事故から学ぶ

車の運転中には、様々な道路交通の情報が入ってきます。そのため、ときとして安全確認等のために進行方向から視線を外すこともありますが、脇見運転は大変危険であることを認識し、常に緊張感をもって運転に集中することが大切です。片手運転は、とっさのハンドル操作やブレーキ操作を狂わせ、思わぬ事故を誘発することがあります。

安全運転の基本は、安定した正しい運転姿勢を保ち、前方注視して注意力を集中し、変化する道路環境を的確に把握しながら運転することです。

また、子どもはできるだけ後部座席に乘せるようにしましょう。